校長室だより～燦燦～ №５８０

嵐の中でも時間はたつ

2022.7.5

人は生きていく中で、いいときがあればよくないときもある。いいときは、何をやってもうまくいくのでいいのだが、そんな状態は、そうそう続くものではない。必ず思うようにいかないときがやってくる。そんな冬の時代とも言える時期をいかに過ごすか、どんなことを考えるかによって、やがてやってくる春の色合いが変わってくる。

今だからこそ、こんなことを言ってられるが、以前はうまくいかないことを何かのせいにしていたかもしれない。常に、どんなことでもうまくいくようにと思っていたかもしれない。今では、よくない時期に入っても、そういうもんだと思えるようになった。今回の波は、こんなもんかと達観しているところがある。逆境にあったときの身の処し方が重要である。

「人の一生には『焔（ほのお）の時』と『灰の時』があり、『灰の時』は何をやってもうまくいかない。そんな時には何もやらぬのが一番いい。ところが小心者に限って何かをやらかして失敗する。」これは、勝海舟の言葉である。

自分にとって、今が「焔の時」なのか「灰の時」なのか、見定めなければならない。往々にして、チャンスである焔の時を逃し、動いてはいけない灰の時に何かをしてしまう。今まで、何度も同じような失敗をしてきたように思う。若いときに、灰の時だからといって、じっとしているのもつらい。そもそも、若いときは、自分に灰の時があろうことなど考えもしない。

人生には、燃え盛る焔のように勢いづき、何をやっても円滑にことが運ぶ時がある。その逆に、ものを燃やす火種すら消え、何一つうまくいかない時がある。そんな時はじっと時がめぐってくるのを待つ。そう先達は教えてくれる。

経験を積み、書物に親しむことで、いろいろなことがわかってくる。一番は、本を読むことである。勝海舟には会えないが、本を手にすることで、勝海舟の言葉には出合うことができる。勝海舟の考え方に触れることができる。

「嵐の中でも時間（とき）はたつ」という言葉がある。ウイリアム・シェークスピアの言葉である。「マクベス」に出てくる。誰の身にも嵐は吹き荒れる。だが、どんなにつらく苦しい日々が続いたとしても、やがて嵐はおさまる。

今思い返すと、あのときが嵐だったのか、あの頃は灰の時だったかとわかるが、そのときには、なかなかわからないものである。がんばっているつもりでも、なかなかうまくいかないことがある。一方、なぜだかわからないが、次から次へとプラスの連鎖が続くことがある。人生とは、この繰り返しなのであろう。

大切なことは、後になってから気づくものである。これからの嵐には、今までよりはうまく耐えられそうである。いくら嵐でも時間はたつのである。そう思えるようになってきた。